

日本における竹細工

日本の竹細工の歴史は、古代にまでさかのぼります。現存する竹細工で最も古い事例は、本州北部（現在の青森県）で発見された漆塗りの竹細工で、これは 2000 年以上前のものとされています。

竹は丈夫でありながらしなやかで、軽く、工芸品の材料としての加工性が高く、また濡れても乾燥しても反りにくく、表面は滑らかで見た目も美しい中空の素材です。これらの特性のおかげで、竹はかごなどの農具や釣り道具、台所用品、食器、茶道具、装飾用の花かご、尺八などの楽器、武器、竹刀、カバンやその他の日用品など、歴史を通じて幅広い製品に使用されてきたのです。また竹は、その実用性と美しさから、古来より建築や庭園の材料としても利用されてきました。

そして現在では、多くの著名な職人たちにより竹細工は芸術の域にまで昇華され、国内外で開催される展示会にて、竹細工の魅力を広く伝えています。